

前略 ■教式メーリングリストには、例として勤務校が作成した2年生用のWSと成果物、読書感想文を配布します。なかなかよくできています。■中学年の先生と雑談をしていて、学力は高いが意欲がどうも低いという話になりました。そこから、それはWS学習の弊害ではないかと思うようになりました。■子ども達にとってWSをこなしていくのが勉強です。そこに書かれたことをこなしていけば先生・親・友達から認められる。そこそこ良い成果物もできる。●ただ、その課題は自分の問題ではない。自分は問題だとは思わないけれど、こなしていけばいい。●先生はいつもWSに書け書けと言う。何故書くのだろうと思いつつ書いている。●それで学力は高いが意欲が低いと。WS学習は課題解決学習なんですね。■もう1つの問題点。力の弱い子が課題をこなせずに、あっぷあっぷしている。休み時間もないのですね。高学年児童の中には、勉強を投げ出している子どもも散見します。全くしない、もしくは人が書いたことをそのまま写すという行為です(これはまだましな方で、低学年の先生の中にはかわれる方がいます。まさに成果主義です。)からなければ隣の人のを写させてもらいなさい」と言われる方があります。●逆に力のある子どもが、自分の考えを書く欄で、「こう書かなければ〇がもらえないからこう書くの。こう書けば〇がもらえるから、こう書くの」と言うのを聞きました。ビックリしました。そこに自分はないということを言っているのです。作文の教式に、自分の作文を直されて直されて、これは自分の作文じゃないと泣いた子どもの話が載っています。それと同じことをこの子は言ったと聞きました。■更に先生方はWSの添削、子どもの訂正の点検の作業であっぷあっぷしている(それで私もアルバイトの口があるのですが。)。■学力って何なんでしょうね。